

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 茨城県社会福祉事業団 あすなろの郷 多機能型事業所 ほびい		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害者入所支援施設・療養介護事業所(医療型障害児入所施設を含む)等からなる大規模施設の中に、多機能型児童発達支援事業所がある。また、病院が併設されており、医師及び看護師が、利用者の健康管理を行っている。	施設全体で実施される職員研修及び、病院職員向けの研修には必ず参加している。	感染防止対策上、自粛されてきた施設内の交流が再開されること。
2	通所利用者においても、緊急時及び保護者の希望により医師の診察が受けられる。	インフルエンザワクチン・コロナワクチンの接種希望者にはあすなろの郷病院において実施している。	必要時には、利用者の主治医と連携を図る。
3	自然豊かな広大な敷地を有する、静かな環境である。	療育活動の中に、施設内の散歩を多く取り入れて、利用者に季節感を感じて頂いている。	施設内の交流のみならず、他の事業所との交流の機会を模索する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	市街地から少し離れた場所にある施設のため、地域との交流を図ることが難しい。	総合支援施設として運営されていることから、地域への協力をあまり必要としていない。	ホームページで事業所のアピールをするなどして、認知度を上げ、他の事業所との交流の機会を模索する。
2	送迎を行っていないので、保護者の負担が大きい。	人員配置困難、人材不足、加算が少ない。	医療的ケア児や重症心身障害児の送迎については、多くの場合、看護師の付き添いが必要となるので、今後も送迎を行うことは難しい。
3	医療的ケア児・重症心身障害児が主に対象のため、「移行支援・地域連携・地域支援」の分野との関りが少ない。	セーフティーネットとしての役割から、対象者が重症化しやすく、施設外へ出ることが少ない。	ナイスハートフェスティバル等のイベントに参加し社会とのつながりを継続する。